



日

磯長山 叡福寺

歴代の天皇が眠る古代ロマンの町



「竹内街道」が通る太子町は、聖徳太子御廟や敏達、用明、推古、孝徳天皇陵があり、古代のロマンがあふれる町。街道沿いの自治体と共に、日本遺産「1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路(大道)～」に認定されています。

# 本の源流再発見

File 27

大阪府南河内郡太子町

## 悠久の時を経て、今なお人々が行き交う道

大阪府南河内郡太子町は、大阪府の東南部に位置しています。府県境の山々を越えると、そこはもう奈良県。大和国(奈良県)の飛鳥が「遠つ飛鳥」と呼ばれたのに対し、太子町周辺は「近つ飛鳥」と呼ばれ、多くの天皇・皇族の御陵がつくられたため、「王陵の谷」といわれています。そのなかでも太子町には5つの御陵があり、5弁の梅の花にちなんで「梅鉢御陵」と呼ばれています。

そのひとつ、聖徳太子御廟のある磯長山 叡福寺は、四天王寺や法隆寺と並んで、太子信仰の中核となった寺院です。この地は太子自らが廟所と

して選定し、太子の死後、霊廟を守るため推古天皇により僧坊が置かれたのが始まり。その後、聖武天皇の勅願により七堂伽藍が造営されたと伝わっています。太子町では今でも太子の教えを大切にしており、町づくりのモットーは、十七条憲法の第一条にある「和を以て貴しと為す」だそうです。この言葉はマンホールのふたにも書いてあり、町民にとって太子は身近な存在なのだと感じられます。

現在の大阪府堺市から、奈良県葛城市の長尾神社に至る約26kmの竹内街道や太子町の歴史を知るには、「竹



鹿谷寺跡

内街道歴史資料館」がおすすめです。この街道は、旧石器時代から人々が行き交い始め、飛鳥時代に官道として整備されました。太子の死後は太子信仰の道として、さらに江戸時代に伊勢詣でや山上参り(大峰詣で)などに向かう庶民の道となるまでの歴史がよ





▲ 推古天皇 磯長山田陵 (しながのやまだのみささぎ)

周囲はのどかな田園地帯ですが、こちらには樹木が生い茂り、厳かな雰囲気漂っています。近くに行くと鳥居と宮内庁の管轄であることを記す看板が見え、天皇陵であることが分かります



▲ 岩屋

二上山雌岳の中腹にひっそりとたたずむ、日本では珍しい大陸風の石窟寺院。国指定の史跡ですが、文献記録もなく誰がつくったか不明です



▲ 竹内街道

竹内街道は、今は国道166号となりその姿を一新しました。しかし、竹内街道歴史資料館近辺の旧竹内街道には歴史的な町並みが今も残り、生活道路として使われています



▲ 竹内街道歴史資料館

竹内街道の歴史を紹介する第1展示室と、主に太子町で出土した多くの歴史資料を紹介する第2展示室があります

く分かります。資料館の周辺には、大道旧山本家住宅をはじめとする古い町並みが残っており、散策するのもよいでしょう。

他にも歴史を感じられるのは、大阪と奈良の境にある二上山の南西側の登山口から雌岳にかけて広がる「二上山万葉の森」です。二上山は、サヌカイトという極めて緻密で硬い石の産地です。ここで産出されたサヌカイトは、旧石器時代から石器の材料として広く近畿一円で利用されてきました。今は多くの史跡が残るトレッキングコースとなっており、日本では珍しい石窟寺院であ

る鹿谷寺跡と岩屋があります。どちらへ行くにも長い急坂を上る必要がありますが、鹿谷寺を過ぎてさらに上ると展望台があり、太子町はもとより、はるか大阪市内まで見渡せる絶好のビューポイントとなっています。また、万葉集にも詠まれたアセビやハギ、ツバキなどの花が目を楽しませてくれます。

**ココに注目**

ベーカリーレストラン「サントル・ドゥ・ヴィラージュ」の「太子ロール」は、国内産米粉を使い、もっちりした食感とやさしい味が評判です。



**日立グループ事業所紹介**

今回訪れた大阪府には株式会社 日立製作所 関西支社があります。日立製作所の関西地域を営業拠点として、情報システム、電力・産業システム、都市ソリューションなど、さまざまな分野で事業活動を行っています。

株式会社 日立製作所 関西支社 大阪市北区中之島二丁目3番18号 中之島フェスティバルタワー

<http://www.hitachi.co.jp/area/kansai/group/branch/>